

1984年10月号

1984年10月5日発行 (毎月1回5日発行)

No.97

# あんふあんて

発行人/ 発行所/あんふあんて出版部  
定価/200円 振替口座/ あんふあんての全 電話/

おそらのでんき

「ねえ、ママ、

だれがでんきつけたの？」

「どこにもついてないでしょ」

「ねえ、だれがつけたの？」

(あたりを見廻して)

「もうお陽様がでて明るいから、電氣は

ついてないでしょ」

「あ、そうか

おそらのかみさまが、でんきつけたんだ

だからね、あかるいんだよママ」

「そう……」

「あのね、よるになるとね、おひさまもね

ネンネだから、でんきけすんだよ

だからね、だからあ、くらくなっちゃう

んだよママ」

ある朝、散歩の途中で

詩 さかもと  
イラスト 戸口

逐次刊行物

昭和59.10.10

国立婦人教育会館  
情報図書室





あまりだけの父でなく、優しいだけの母でなく、子育ては静かな戦いです。こんなコマースシャルのコピーがテレビから流れてきます。毎朝広げる新聞、街の書店、図書館に行けば区分けされた育児書コーナーと育児についての情報に事欠く事はありません。そして、育児についての定義も様々なものがあります。私の好きな女性の作家が、育児はひまつぶしとエッセイに書いていました。その人の場合、子供がいまさんから、仕事もひまつぶしという事になるのですが。となれば、これほど考えさせられるひまつぶしもないでしょう。大きなお腹を抱えている頃は不安でした。

子供を育てるときはおしめをかえろ、食事をあたえる、寝かせる、言葉を教える、一緒に遊ぶ、排泄をしつける、手をひく、おんぶする、ケガや病気をしないように気を配る、良い環境をつくる。やっていることを書きならべてみても定義づけは不可能です。ひまつぶしかもしれないし、戦いかもしれません。

墨田区

我が子にはどんな子になつてほしいか？  
「努力家」今は二才九カ月の息子が一人いるだけだけどこれから子供が増えても同じです。「努力」なんてずいぶん昔の寄せ書きの言葉みたいで古くさくて、目立たなくて、ナウくないけれど、やっぱりどんな時でも大事なのです。今の所ひ弱なタイプの息子が人生の荒波に強く生きて行くためにも努力あるのみだと思ふの。そうしていつの日か、立派に成長した我が子を眺め、一人悦に入る……とまあ以上のような期待をしているけれど、人生どこでどうずつこけるかわからないからね。それにどう育てれば努力家になるのかわからない。今やれることは、せいぜい何をやるにも手を貸さないで、子供がやるのをじつと待つことしかない。私は戦争だけは絶対しないよう努力しよう。



## 千代田区

私の一日は、間もなく二才になる息子を追い回して明け暮れる。いつか公園に来る奥さんが「子育ては戦いよ」と言っていたが、最近増々いたずらに磨きのかかった息子を相手にしているのと本当にそう思う。

時には口で足りなくて手が出る。よく言い聞かせればわかつてかも知れないといつも後悔するのにな……体調は子供にどういふ影響を及ぼすのだろうか。子育ては私にとつて難問の山であるけれどあまり身構えないことにしている。その時その時に子供と一緒に発見し、理解し、反省して行こうと思つてゐる。



明日が一年生

千代田区

の価値観は大人のそれと全く異っている。だから、今は息子に多くのことを体験してもらいたいと思っている。そしてその中で、良いことも悪いことも身をもつて知って欲しい。息子自身が多くの「場」を踏むことで成長して行くと信じている。性格は遺伝や生まれつきそなわっているものがあると私は思うのである程度以上矯正できないのではないかと、とも思う。息子の「強さ」というか「きつさ」を見る度に、自分とあまりに似ているので驚いてしまう。こんなに小さいうちから、子供は親の背中を見ているのだらうか。今、一番気をつけていることは「自分の感情で叱らないように」ということ。これもなかなか難しく、次から次へといたずらされると、つい頭に血が上って我を忘れて叱ってしまう。

十一才、八才、二才十カ月と三人の娘がおりまして、まさに子育て真最中といったところです。末子も乳児期を過ぎてますので一段落というところです。最近感じますことは自分が精神的に疲れている時は、子供達もとてもきげんが悪くなるということです。家で遊んでいる時は三人ですので、どうしても三角関係になつてしまい、次女がいつもはみ出してしまします。泣きながら私の所に来るのですが、聞いてあげるだけにした時は少し時間をおけばなんとなくまた遊び出しますが、私が仲裁に入ると三角関係が四角関係になり遊びも中断してしまします。できるだけ親の感情でしかないようにと心がけていますが、今悪さをしたことについておこり始めて、前日のことにまでさか上り、長女と次女に關して

は勉強のことまでも出してしまいます。時間をおいて考えてみますとささいなことで目くじらたてて、なぜあんなにおこつてしまったのか反省の毎日です。

いくら子供でもいいかげんな気持ちで接していると本当にうまくいきません。親の接し方により良くもなり悪くもなつていくということですでしょうか。毎日の生活の中で子供の存在は大きく育ててるといふよりも親も一緒に育つていけるのですねきつと。

長女がまた赤ちゃんと、の壁初めての子とあって必死な毎日でした。おまけに体重二一八十ポンドという未熟児でしたので、よそ様と比べて本当に小さく心配が先にたつて夜が明けると「きょうも生きてくれた」という気持ちでした。子育てを十一年やつていることになりましたが、なほしろ一番こわいのが病気で五回特に次女は熱性けいれんが一度の発熱で五回おきた時もあります。最初の時は明方で運悪く主人が出張中の為救急車を呼びました。体がこわばり、目は白黒になり、本当にどうなるかと思ひ自分の体がガタガタふるえてとまりませんでした。それからというもの次女の発熱には特に神経がビリビリしています。

三女が三才ですので一応二十才までとして、あと十七年、親の責任があるわけです。成長して病気が少なくなってくればまた違う問題がおきてきます。親としては明日が一年生というわけです。ある先生にききました「あまり子供にのめりこまないように」と。一步おいて見ると、しかり方もちがつてくると思います。目まぐるしく変わる社会の中でこれからの日本の為に子育ては大切な仕事ですね。





# 私が夢中なもの

新宿区

我が家は正純(五才)真美子(三才)聡子(二才)です。下二人は一才二か月の長男に怪我をさせ、それこそ戦争でしたが今は案になりました。女の子は大人しくそんなにとんだりはねたりしないのですが、やはり男の子はすさまじいばかりです。今はやっと幼稚園も始まり一日中遊びまわっています。私の場合は子育てというより私の方も子供と育った。成長できたという感じなのです。

まず長男を産むと云ったら友達全員が反対。私には育てられるはずがないと、中には「よく考えてみな子供はめんどくさいから」といつてする訳にはいかないんだよ」とも云われました。それもそのはず、私はわがままに育てられて自己中心的な人だったし、その上必殺遊び人だったのです。まあ今となつてはその頃の友達が人間って変わるものだと感心しておりますが、でもそんな私が親になつて子供に伝えたい事は、他人を思いやる、他人に迷惑をかけないという事で、やはり口で云つてもわからないので親が見本をと思つて私も気にかけています。



# ひと夏の体験

文京区

六月末の夕方、一才二か月の長男に怪我をさせてしまった。自転車を止め、左手で荷物をかごにつめていた時、車体が倒れかかっていた。体で支えようとした瞬間、右腕に抱いていた息子はバランスを崩し、自転車の向う側に頭から落ちてしまったのだ。あつという間だった。アスファルトの上に真逆さま。グシャッと言がした。頭蓋骨折だった。

あの時のことを思い出すと、今でも体中が凍るような気がする。幸い打ち所が良かったらしく、精密検査の結果、脳に異常はないと分かった。子供の骨折は完治し易く心配ないとのこと、本人は入院中も元氣一杯だった。「子供はいろんなことがあつて大きくなるんだ。親も一緒に大きくなるの。何もなくて順調すぎたら、人の痛みも解らないよ」見舞つてくれた母は、涙の出る程ありがたいうち所が悪ければ、取り返しのつかぬことになつていたのだ。私は我が子の強運とたくましさ感謝すると共に、息子にわびる気持ちで一杯だった。

それから約一ヵ月半。大失策をやつと乗り越えたというのに、私の心はどんどん沈んでいった。実はこの事故の前夜、私は自身の進路について考えあぐね、眠れぬ程だったのだ。

正純が四才の時の事です。私が下の二人と散歩している時、真美子が走ってどこかへいってしまつたのです。まだ聡子は一才でヨチヨチ歩き。これをつれて探したのはたいへんだと思い、正純に話しかけました。その頃正純はお兄ちゃん達と一緒に夢中になつて何かを作っていました。その事を告げると大急ぎで探しに外へ出ていってくれました。私も外へ出ると行き違ふといけなかつた。家でも探していません。やがて十分、二十分、三十分、近所のお姉ちゃんや真美子を探してきてくれました。我家は九階でエレベーターがあるのですが、二階で泣いていたそうです。それからちよつとたつて正純がずぶぬれになつて帰ってききました。いづしか外は雨になつていたので、私が真美子を叱る前に私が正純に叱られてしまいました。「ママがいないが」と云われ、真美子も正純に「ママ達がどれ程心配したかわかっているのか」と叱つていました。私も悪い為に、正純の横にいて相づち打つただけでした。でも妹がいなくなつたという事で必死にさがしてくれ、雨の中をあつちこつち走つた正純に、私はアア兄弟つていいなアと心から思いました。

四才にこうです。今はいつかりしています。親が出来ない分だけ、子供がしつかりした様です。近所の人には少しは子供を見ならつたらとか、子供の方がしつかりしているとか云われ肩身が少し狭い思いもしています。子供に恵まれたんでしようか。私の場合は、ちなみに下二人の子とままごとをしようと、私はいつもおばあちゃん役ですが、こんなのうちだけでいいですか？

妊娠中は、ライフワークのために大学の研究生として単位取得に励んでいた私だったが、出産のため次のステップは中断していた。しかし、家事と育児のみの生活を一年以上続け、次第に息苦しさを感じ始めていたのだ。事故のあつた眠れぬ夜、病院の付き添いベドの中で何度も思った。「ああ、専業主婦でよかった。何の支障もなくこの子に付き添える身でよかった。何かあつた時、一人何役もこなせる程器用な自分ではないのだから」そしてこの事故こそ前夜の悩みに対する解答なのだと納得していた。それなのに……

八月半ば、私の葛藤はピークに達した。「家にいるべきだ。子育てが仕事じゃないか」その声、あの事故を武器にして、私の自立への欲求を批判し、責め立てる。とうとう食べればすぐに下痢をし、夜はほとんど眠れぬという状態に陥つてしまつた。心身症の前兆だ。こうなると身も心も生活についてゆけない。育児は落ち着いてできず、このままでは一番大切な子供にこそ悪い影響を与えてしまう。そう考えて、また苦しくなるのだつた。

九月、夫、母、信頼する先生、それぞれとの相談を通して、私は勉強を再開する決心をした。子供のために私の一部を否定するのでなく、子供がいてのことでの制約を引き受けつつ、子供と共に私自身も生きよう。活き活きと、私が私を一所懸命全うしよう。もしそうでなく、いつも何かを抑えてくすぶつていたら、それは私一人に留まらず、大切な家族をこ傷つけてしまうことになるのだ。ひとときわづかつたこの夏、私もちよつぱり胸を焦がし、熱い思いを体験した。

江東区

「子供を育てる」って楽しいし、充実していると、今は感じています。十年前の私とは大抵が違います。あの頃は、三才、一才の二児を抱えて育児まつ最中。毎日、子供を叱つては、自分も泣いている、という情けない母親でした。早く幼稚園に上がつてくれなかつた。早く大きくなればいいという思いばかりでした。体罰が子供の心にも影響するとか、どんな叱り方が良いかなどという育児のノウハウなんか何も考えませんでした。ただ、私の未熟な人生観とやらでがんに子育てをしてきました。私の母にいわせると「鬼みたいな母親」だったそうです。その二児も中学一年生と小学校五年生になりました。少し融通がきかないところがありますが、物事の判断のけじめは、きちんとわかっているのは、自分で自負しています。子育てというのは、しつてきた事の良否が、あとあとになつて出てくるおそろしさがあると思います。しかし、自分なりの信ずるところで育てていけば、途中で気づかされるマイナス面は、その時点から努力をしていけば修正できる可能性があると思います。

次女から七年のブランクをおき、長男が生まれ現在三才になり、また子育て現役ですが、前に書いた様な肩ひじを張つた思いはありません。むしろ、かわいくてずつと私の手の中で遊ばせておきたいほどです。でも、一人歩きする時に必要な何事にも負けない強い意志を持てる子になる様、私なりの信ずる子育てを努力していきたいと思っています。

子育ては二人三脚

江東区

我家には三才五か月になる息子が一人います。一人で何人分ぐらいうるさいだろうか。とにかく起きている間は息つく暇もない。だから寝たあとはとてもほつとします。出産して、毎日子どもと接している中で思うことは子育ては忍耐そのもの。でも時には堪忍袋の緒が切れて子どもを泣かせてしまひ、あとで後悔する事もしばしば。ほとほと自分に嫌気がさして子育てに自信をなくしてしまひ、もともと自信なんてない合わせないが、お互い楽しく一日が終わればいいなという感じでしょうか。せつかく授かつた子どもでも、の、楽しい育児にしたいものです。

子どもが成長するに従つて父親の存在もだんだん大きく、大切なことに感じる様になりました。特に男の子なのでなおさらだと思います。最近父親がいてる時はなんでも「おとうさん」という言葉が発せられます。食事はおとうさんの隣でお風呂もおとうさんと、寝るのもおとうさんと、すべてこんな具合です。会社から帰宅すると、少し私は楽をさせてもらえるわけですが、「おとうさん」とばかり言われると、ちよつぱり胸の奥が痛みます。

毎日毎日、泣いたり笑つたりの変わらない生活ですが、とにかく元氣でいることに感謝して、二人三脚でがんばつていこうと思っています。





お母さんこわい？

千代田区

現在、長男が二歳九ヶ月、二男が五ヶ月になろうとする。知らず知らずのうちにこまできて、今改めて子育てを考えると、ただ夢中で育ててきたような気がする。いつも母に「子供は感情で育ててはいけない」と言われてきたので、なるべく守るようにしてきたつもりだが、だんだんと成長するにつれていたずらも増え、最近では二男が生まれての嫉妬もあつて反抗的になり、ついこちらの方も叱る時が出てしまう。叱る時は手短かに、などと育児書どこかに書いてある文面が頭をかすめるが、子供が二人になつての忙しさも手伝つてイライラすると我が子ながら憎らしくもなる。時間がたつて冷静になると感情的になつた自分を反省し、ためしに「お母さんこわい？」と聞いてみると、「こわくないよ、やさしいよ」といじらしい答えが返つてきてここで初めて叱つた事に対して悪かった、と反省する有様である。叱る事もほめる事も、どこでどうすればよいのかよく考えればよいのだが、お互い人間同志、相手は子供なのになかなかそのやり方はむずかしい。

我が家は、主人も私も実家が近いのでよく子供を連れていく。私の方の実家は私が三人兄妹の末っ子なので孫も七人目だが、主人の実家では初めての孫たちになる。その為か長男が生まれてからの可愛がりようは想像以上で、孫は目の中に入れても痛くない。というのはこのことかとよく思った。でも最近困るのは、悪い事をしても叱らない事である。自分分の実家ではざつとくばらんにポンポンと言え

るが主人の実家はさすがにそうはいかない。こういう時はこう言つてほしい、こうしてほしい、ということが沢山ある。もう三歳近くになれば人の顔を伺うこともできるので、主人の実家に行くとき長男はわがままのし放題になる訳である。しかし私も二児の母、少し強くなつて子供のしつけについてはきちんと方針を述べようと考えている。

### 盲目

杉並区

「叱る」という行為は、「怒る」という事と違う。こんな事、普通は考えないのかも知れない。が、私の場合、子供を「叱る」のではなく、「怒つて」しまつていたのである。まだ二才足らずの娘に、一日中「怒つて」いたのである。ふと気づくと、自分の生涯の中で、これはど人に対して、感情をストレートにぶつけて、一方的に怒つた事などあつただろうか。何故だろうと考え、これが親子なのかと愕然とした。夫を含めて、他人にはこれほど感情をストレートに出した事はなかった。私は、こんな幼い子に何をしているのだろうとおそろしくもなつた。

今年の春の事である。「育児ノイローゼ」

アルゼンチンにて

新宿区

皆さんはじめまして。私の子供 男子二人三才半と二才です。近頃やつと少し余裕ができてきたみたい。

私は妊娠五カ月の時、主人が単身で赴任しているアルゼンチンに行きました。向こうで出産するにはあまり不安はなかつたんですが、でも生まれてみるともう大変。全部自分でしなくては行けないんです。たつた三日で退院してその日から洗濯、赤ちゃんのお風呂まで。主人は仕事で忙しいし、ほんとに大変でした。ですからかわいいていう実感よりも忙がしくて、すこしましになつたのはしばらくしてからです。上の子はもう神経質で夜泣きは一寸近くまでして、離乳食はほんの少ししか食べないし私もはじめての事です。とまどつちやつて、育児ノイローゼ気味になつたり。八カ月位で下の子を妊娠した時は、どうしようかななんて思つたりもしたけど、せつかくできた子供なので、生むことにしたんです。

そうして、生まれてみると、左足だけ太ももから足首まですごいアザができて生まれてきたんです。もうその時のショックは口ではいい表わせないほど。主人もショックみたいでした。いろんな検査をしましたがわかりませんでした。あの当時はほんとに辛かつたですね。まさか自分の子が、なんて思つていましたから。

ようやく、それでもがんばつていかなくつちやと思いはじめた頃、拓海(次男)のアザが、一カ月、一カ月と少しずつすくすく

したんです。今では、ほとんどわからなくなりました。現在は太陽(長男)も拓海もすごく元気で、あの時の事は、ウソみたい。太陽は今も少し神経質です。その子の性質もあつたと思いますが、その当時、私も慣れない国に住んでいたせいもあつてか、よくしかつていません。拓海はわりと甘やかして育ててしましました。今となつては私自身、すごく反省する事がいっぱいあります。

親が子供に対する接し方一つ、一つで、子供に影響が大きくでるんですね。今からでは少しおそいかもしれませんが、少しずつその子にあつた子育てをしていきたいと思つて



### 子供の恐いもの

江東区

我が家には常に子供の目の届く所に竹製のふとんたたきが置いてある。ものすごく悪いことをした時、親の気持ちが手でたたくだけではおさまらない時、これはいけないことかな？には、これでおしりをたたくことにしている。子供もさすがにこの痛さはよくわかつていて、ふとんたたきを手にしただけで泣きだし「もうやらない。ごめんなさい」と反省的に口にする。子供の最も恐れている

その言葉が、一日中頭から離れなかった。心身共に、疲労し、ますます家庭中に閉じ込められていった。娘は、小さな体で必死に抵抗した。不安を消す為に、一時たりとも私から離れず、また私の怒りを増長した。毎晩、寝顔を見ると、「ごめんねママが悪かったのよ」と語りかけずにはいられた。そんな私に、日増しに反抗する娘、まさに悪循環であつた。娘の抵抗がピークに達すると、さすがに私も「怒る」どころではなくなり、ただ見守る事しかできなかった。自分の愚かな行動が、すべて、娘を通して再現されたのである。自分が、只、感情のままに怒り狂つていた事を再認識させられたのである。「子供を叱る」という言葉の奥に、私は、自分のストレスをぶつけていたのである。幸い娘は、夫によつて救われた。私がいくら、ノイローゼになつても泣くがわめくが、何も言わず、それがもの足りずますます自分の殻に閉じ込められてしまつた。夫は、ひたすら時間の許す限り娘と供に過ごした。あの時、一言も私を非難しなかつた夫の態度、その意味に気付いたのは、ずい分後の事だつた。今だに、怒らなくとも良い事を怒り、泣いたと言つては怒る駄目な私であるが、悪夢のようなこの春の数カ月を思えば、近頃のは、口癖のようなもので、怒つた後で苦笑してしまふ。一日中怒つてばかりいたのでは、肝心の「叱る」「べき時」にききめのない事も経験した。娘には、これから除々に慣つて行かねばならない。

私には「育児」は語れない。まず「育自」なのである。そして、子供をきちんと「叱る」ことのできる人間にならなければならぬ。

物の一つだ。これは私も主人も使っているが私は子供をしかつた後もしばらくはその怒りがおさまらず、子供に対して口をきかなくなつた。主人は「わかたねつ、もうやらないね」と強い口調で言つた後、子供が「わかたね」と言うのと「じゃあいい」と子供をひざに抱く。その時はもうさつきとは全然違ひ子供をひたすら笑わせることに徹する。そんなわけで主人がしかつた後は必ず子供のキャッキャ言う声が聞こえてくる。これが男と女の違ひなのか主人と私の性格の違ひなのかいづものことながら、この変わりように感心させられる。

子供はこの十月で四才になる女の子だが、なにしろ口が達者で最近では親顔負けの理屈を言う。感情の起伏が激しいので友達とぶつかることもしばしば、私とぶつかることは一日何回あるかわからない。子供が小さい時は子供には体罰はいけないとか、はなしで聞かせればわかるとか、いろんな意見を聞いて私自身、子育てには随分迷つていた時期もあつたが、今では、むやみやたらにあれもダメ、これも許せないと大人と同じ位置においてしかるの、子供を子供らしくさせないと思ふが、ただいけないことはいけないんだと親の感情をそのまま子供にぶつけることも大切なんだ、何かに感じて理屈ではないものを、わかたね、うれしい時や悲しい時、たとえ子供の前で涙を見せることがあつても、親の気持はこうなんだとすなおに出すことも一つの子育てではないかと思ふ。



やっぱり育児だけではものたりない

新座市

四才と七カ月の二女の育児で一日が終わる。二十才に産んだ長女は、ほとんど密室育児だった。出産をプラスに持つて行く賢さもなくて、ただただ自分の人生について暗く模索の日々が続いた。生後六カ月より働きたいと思っていたが、二才四カ月ついに実行。パートだが女一人で仕事の内容は、トイレそうじからコンピューター操作までと豊富でやりがいがあり充実していた。しかし人間関係は豊かではなく毎日やめたいと思い、一年働いた。夫にはよくケンカをふっかけた。自分ばかりという気持ちからイライラし、お酒を飲んで激しく口論した。気持ちに余裕のない忙しい毎日だった。

託児所は民家でやっていた小さい所だった。先生が立派そうなので安心して預けていた。今思うと子供は置きざりの一年だった。毎日泣いていやがるのに、しかりながら連れて行った。庭のない託児所で毎日どうして遊んでいたのか。特別連絡はなかった。情ない母親だった。遠慮して子供の様子はつきり聞かなかったのだから。

一年後公立保育園へ入所出来た。入所と同時に担任から、「普通の子とちがう」と言われる。言葉が遅く人に興味を示さず集団行動が出来ないのだ。自閉的傾向児ということだ。園では普通にする為に家庭と連絡を密にし、両方で協力しあうて直して行くという。私は専門家から助言を受けた。母子関係が出来ていないのが原因らしい。つまり子供が母親を一番大事な人と思っていないということだ。

## 図書コーナー

「母親の子育てと共同保育」

西村絢子著 あゆみ出版 千二百円

「現代子育て考」(現代書館)を読んだ方いらっしやいますか。もう九年前に出た本なんです。体制に異議を唱えた学生たちがやがて親となり、子育ての場から新しい生き方をさぐり、女、男、子どもの新たな関係を模索している真つさい中の現場からのメッセージでした。かなりカタメながらも赤ん坊の横で時間をかけて読み、私も何か始めよう、と思わせた新鮮な本でした。そしてその頃、親となった人たちがさぐりながらやっていた事の中に「自主保育」といわれるものがあつたのです。

「現代子育て考」から九年後の今、あの頃あちこちで芽を出した様々なタイプの自主保育をまとめた本が出ました。これは著者がグループを訪ね歩いたルポ風紹介なので、現場からの直接のメッセージでない分、特徴が客観的にみられて読みやすいといえます。何もしないままでは自然な子育てが難しくなってきた社会で、この間までは親になることなんて考えてもいなかった方たち、けれど今なるとか親であらうとしている方たちに特にこの本をすすめます。昭和四十年代から始まった公民館保育室から五十年代にこれこれ試みられた自主保育の活動を一応タイプ別に分け、全体を女の歴史の中でとらえようとしています。紹介されている個々の例は、既にバラバ

子供の世話全部やっだし、いつも一緒だったのに。信じられなかったし納得出来なかった。一年半たった今も、そうかなあと思うことがある。入所と同時に妊娠し仕事を辞めた。園は続けて通った。長女の事だけ考えた一年だった。自分に対する欲はわなくなつた。次女が生まれ自分にこんなに大きな子がいたのに気がついた。同時にボンと子供をつき離して見れるようになった。

四カ月前庭付きの借家へ移った。隣人の息づかいも感じることもなく、夫も私も解放された気がした。二人の子持ちになった開き直りと余裕そして解放感が長女の育児にプラスになり、だいぶ見通しが明るくなった。今も長女との関係は気がぬけなくて生活のメインであるが、この頃は少し余裕が出て来て、自分が主役になる何かを求める気持ちが強くなった。やっぱり育児は生活の一部であり、全てではないのだ。

社会から隔離されたような感じ

新宿区

私は結婚した年令が、二十九だったので、早く一人でも赤ちゃんを作ろうと思ひ、結婚してから六カ月に妊娠しました。私の身の回りには赤ちゃんや小さい子供もいなかったのだけれど、ちゃんと可愛いだろうなという気持ちでたつたわけですが、いざ生まれてみるとその育児のたいへんさに驚きました。最初の半年位は無我夢中という感じでした。とにかくあまり寝ないし、よく泣く子だったので、一年間は悪戦苦闘でした。しかし一年もすぎると昼寝も一日一回になり、時間をもてあます

ラに本やパンフ、あふあんで会報で取り上げられたものもありますが、あれやこれやをまとめたものつてありそうでなかったんですね。希望としては、働いていない母親の活動に的を絞ってあるので働く母親の増えに現在の、統編が欲しいところ。公立保育園での親の自主的活動、父親の子育てなど、例えば「男も女も育児時間を」のようなやはりバラバラに出ているメッセージを一冊にまとめてもらえれば「現代の子育て」がもつとみえてくるんじゃないかしら。

それから、この本の中では、あたりまえすぎてあまり触れられていないのでしようが、一言、付け加えておきたい点があります。それは楽しく順調な活動を紹介されているもののグループにも必ず悩みや苦労があつたということ。気の合った友人同士が、さらに気の合った仲間だけを集めて始めたのではなく、初対面同士が出合いを重ねていくしかないのはどこも同じ。そのいくつかは形をつくり、いくつかは苦しい別れもあつたでしょう。「グループができてしまえばこんなにラクです。楽しいです」(全く本当のことなんですけど)という明るいイメージだけを受けてしまうと「私もさっそく始めよう」とした時に、現実とのギャップというのが大きいです。だまされたような気になっちゃう人もいるのでは……。どうして私が呼びかけても仲間が増えないんだらう、私の人間性に問題があるのかしら、環境が悪いのか、それとも自分とはとても運が悪いのかと落ち込む人もあるかも知れません。いいえ、今ニコニコやってくる人たちが初めはみんなそうだったのですよ。けれどあんな

という感じで一日何をさせたらいいかという感じ。特に雨の日などは。何しろ外で遊ぶのが好きなので、午前、午後と良く外で遊ばせています。

しかし子育てというのは、時間があるようでないですね。何をしたいのかわからないので、目を離せないわけで、結局自分のしたい事など全く出来ないわけですね。ついこの間も、児童館の廊下ですべてころんで頭を切つて縫うというケガをしてしまいました。まさか外でないのでそんな大ケガをするなんて予想もしなかったもので、本当にびっくりしてしまいました。

このように子供が動いて活動している間は本当に親も息がぬけないわけですね。昼寝している時だけがやっと思ひでます。そして最近つくづく感じる事は、私は子供が出来てからずっと働いていたせいか、働かないで家にいるという事は、社会から、隔離されたような感じで、何か自分が精神的に成長しないようにこわいような感じがします。毎日毎日子供だけにつきあっていると。だから何かをしたいのですが、子育ての最中はむりなんですかね。みなさんはどう考えているのかなあなんて思います。



まりしんどさを口にすると「それなら私から始めるのはヤメタ。近くの誰かがやってくれないかなあ」といわれてしまふ。だから是非もう一言も加えておきます。昨日までは知らない同士が子育ての少しの部分でも共有できるようなつた時、必ずそれまで動いた以上のものを得られるということ。多くの先輩たちが受け合ってくれます。それにも、グループ作り失敗したとしても、それは子育ての失敗などでは決してないのです。結果はともかく親が自主的に動いたという一点だけでも「自主的な子に育つて欲しい」と自信を持つていえるではありませんか。

私たちが今あふあんでにしている動機は、自分の時間が欲しいから子どもの預け合いをしたい、親も子も友だちが欲しい、もつとのびのび遊ばせたい、女同士のつながりが欲しい、と少しづつ違っていて、同じ会員でありながら、その少しの違いをお互い埋めるのにしんどいことと思つていたりする方ではないかしら。今までの子育てに不安や不満を持ったそれぞれの状況を社会、歴史の中で自分は今どんな所にいるのか、この本を一助としてでも見つめ直して欲しいと思います。

もう一度、考え方の少し違っているあの人と一緒にできそうなことを探して、作戦を立て直してみようでしょう。(大山)





## 来期案決定

あんふぁんて、まだまだおもしろい10年目

九月十五日の交流会では、先月号に載せたような準備案などについて話し合われました。会員のうち約半数が在会一年未満の比較的新しい会員という現状を反映して、出席者も発会当初からの人、五、六年目・三、四年目の人、一、二年目の人、半年目の人、さらに未婚の女子大生なども加わって、さまざま。折しも二、三年前から課題となっていた、その新旧の会員の世代交代について、今までは旧くからの人の側からしか、推測などによって討論されていなかったことが、やっとバランスよく話し合われたという感じです。

### ▲無理のない二本立路線で

今までは新旧の二本立てでいいこうとしても、両方を旧いスタッフが担う形ではなく、両方とも中途半端で出来ず、イライラがますます。ちっとも「イキイキあんふぁんて」ではありませんでした。そこで、昨年あたりは未熟でもいいから、新しい人たちにスタッフの仕事をもっと任せていこうと、グループ編集や子育て講座を一任。その居直り精神がよくなったみたい。「やればできるもんだ」の収穫あり。

そして今年度は、新しい人たちは新しい人たちの関心やテーマを自分たちなりのセンスと表現で、旧い人たちは旧い人たちのこだわりや主張をわかりやすく伝達することを学びながら、という二本立てを全体的な基本路線にしたいと思っています。

▲会全体としてやる事のそれぞれについて、二本立て

情報誌については昨年と同様、グループ編集。それも新しいグループをどんどん募集。編集の技術的なことをアドバイスするスタッフも待機していますよ。遠くでもその意志のあるグループは相談してみたい。方策を考えたいと思います。こんな風にいろいろな人が誌面作りに参加していけば、テーマも自然と広がり、新しい人も旧い人もという柔らかな情報誌になるのでは。投稿も大歓迎。未熟でもかまいません。あなたの気になる事を素直に書いてみませんか。

子育て講座は、「仲間集めやグループ作り」というテーマの会呼びかけ風のものと、「何が自主保育か」「あんふぁんてをする」ということは、「自主幼稚園の可能性と実践」というような一歩突っ込んだテーマのグループ交流会（かつて半年に一度開催したことのある）風なものとの二本立てで開いていけたらと思っています。

集まりも預けたことのない人たちに向けての子どもと一緒の「ひなたぼっこ会」を復活させたいのだけど、誰か協力者募集中。一方、新宿土曜あんふぁんては子なしの身軽人間で、新企画の積極的行動を期待。

また、事務局についてももっと知らせていくべきで、もう少しいい形がつくれないうものかと検討中。（古知）

## 情報コーナー

☆新小岩周辺及び総武線沿線の方、楽しいグループを作りませんか  
同意の方、どうぞ一報ください。

☆子ども服など処分したい方はどうぞ  
一年前からリサイクル運動を始め、現在十名近い仲間と月四、五回、場所を借りて、フリーマーケットを開いています。物が豊かな時代だけに不用品を有効に使っていききたいという運動です。

☆秋の夜長、井戸端会議でもしませんか  
10月20日（土）醍醐宅（泊り可）

☆子連れで山歩き、しませんか。  
子供といっしょに、今度は違った山歩きができそうです。子連れで一緒にしませんか？（娘は八カ月です）

☆2月号は「子供の病気」の特集。原稿や情報を募集中！

## あんふぁんてから

あんふぁんてへ

就学児健診を控えたお母さん、スライドを見て優生思想について考えてみませんか？

府中市

「優生保護法」と聞いて頭に浮かぶのは産婦人科の看板？それとも二年前の同法改悪友対運動？でもそういう人も子供を産む時、五体満足であれと願ったのではありませんか。この、五体満足ならとか健康ならとかいう気が、実は私たちの心の中にある優生思想なんです。

昔から、優れた者どうし交わって優れた子孫を産み出すのが国のためと考えられてきました。特に戦争などになると、国は堕胎禁止を強化し戦力増強につとめ、一方では役に立たない障害者たちを平気で餓死させました。そして現在、羊水チェックなどで胎児のうちから優秀を判断し、出来の悪い子は生まれる前に処分可能にまでなったのです。

この、優れた者を善とし、出来の悪い者はまっ殺したり隔離したりする世の中に生きてきて、私たちも健康なのが当然、頭が良いほど強いほど幸せだと考えがちです。障害を持つ人とふれ合う機会もないまま大人になり、街で出合ったそういう人にどう接していいかわからず、恐れや嫌悪まで感じてしまします。でも、私たちだって交通事故で半身不随になったり障害児を産む可能性も高く、年をとれば醜い寝たきり老人にもなるのです。

強い子や病弱な子、泣き虫やおつとりした子、いろいろな子がいるのです。そしていろいろな子がいていいのです。頭の良さや障害の有無、性別、身分の上下などにかかわらず、誰にだって人間らしく生きる権利があるはずなんです。その誰もが相手のあるがままを認め、それぞれの力を出し合い手を取りあって生きていくのが本当ではないでしょうか。

「三多摩優生保護法改悪に反対する私たちの会」の有志が作ったスライドがあります。優生思想の発展や国家による子宮管理の歴史がわかりやすく説明され、障害を持つ人のナマの声が入っていて、とても考えさせられました。題は「みんないっしょに生きたいね」四十五分の長さで、広い内容をわかりやすくまとめているので、今まで優生思想なんて考えたことないという人向きです。特に来春小学校入学を控えた子供を持つお母さん、障害児をチェックし地域の学校から締め出すために行なわれる就学児健診の制度を考え直すよききっかけになると思いますので、ぜひ見て下さい。

貸し出し希望が多いのですがスケジュールさえおさえれば少人数の主婦のグループや個人にも貸し出してくれるようです。あんふぁんて多摩川グループでも十月上旬上映会を行ないますので、興味のある方はご連絡ください。

スライド製作グループの連絡先

さん（連絡は夜に願います）

☆2月号の編集を近くの方いっしょにやりませんか。

2月号の編集を「遊び小屋」で行ないます。特にテーマを「子供の病気」にしぼり、軽い風邪から、完治するまで長くかかるものまで、いい病院、いやな病院、病院めぐり、治療に関する情報及び失敗など、独断と偏見による自分の体験談を募集中です。

尚、当方会員二名につき、近くのグループの方、会員の方、一緒にやりませんか。

☆子育て講座託児係 スタッフ募集

第4回子育て講座 行徳公民館 10月14日午後1時から4時の託児係を募集しています。今回は部屋が狭いため、子なしでこれる方、ぜひ連絡を。2千円＋交通費支給。今後子育て講座の計画がありますので、共同保育に燃えている人、燃えようとしている人、失敗しちゃった人も、ぜひスタッフに。

☆収穫祭

私たちは無農薬、無化学肥料で農業をはじめて七年目になります。旧交を暖めたり、新しい出会いを求めてもつとき、はうとうづくりなど楽しい一日にしたいと思っています。今年十一月二十五日（日）午前10時より連絡下されば詳細をお知らせします。

## 事務局から

○今月号には新しいグループリストを同封しました。今後一年間、新会員に渡すもので、情報交換の大事な手がかりともなるものですから、グループ連絡先の方は必ず、住所電話番号に誤りがないか目を通して下さい。また内容に変更があった場合もそのつど会報に載せますので連絡をよろしく。



*asparagus*

## スケジュールメモ

10月14日(日)子育て講座パート4  
10月20日(土)11月号編集会議(府中グリーンプラザにて)  
●担当は多摩川グループです。原稿の送り先は

まで。

10月20日(土)秋の井戸端会議  
10月27日(土)新宿土曜あんふもんで  
11月2日(金)11月号発送(事務局にて)

## スタッフから

●編集にはじめて参加しました。いつもはのんびりコーヒーでものみなながら読んでいますが、大変なんですね。いい勉強になりました。暑い夏が残り、自主保育がんばろう。(加藤)  
●編集の仕事って大変なんですね。これから情報誌も今までは違った思いで読めることでしょう。新宿御苑を眺めながら楽しくもきついひとときを過ごしました。(遠藤)  
●何かに追いついてたてられるみたい、忙しく日が過ぎていく。忙しさの中の編集でもなんとか皆に助けられて中身の濃いものに仕上がった。協力してくれた人達ありがとう。(醍醐)  
●鬼に笑われてもいいから来年のこと書かせて下さい。二月号の担当になりその下調べを兼ねて参加しました。何より人数と原稿は多いほど助かるのが第一印象でした。(安藤)  
●今回は新しいグループへ編集の出張講師です。やってみると、意外とできていくみたいどこへでも、(仕事で、九州とかへも行ける)ところもある)呼んで下さい。(古知)  
●原稿を書いただけで、後はおんぶにだっこしてしまった。ごめんなさい。でもちゃんとできて無責任な私も一安心。みなさんありがとう。(永田)  
●場所を提供するばかりで皆さんとあんまり一緒に参加できなくてごめんなさい。最後にイラストの役目が入っているのががんばりますね。情報誌が出来上がるのが楽しみ(戸口)

★入会申込みは切手四百円分同封し、住所・氏名・電話番号・郵便番号を記入。宛名は表紙上段に記載  
★参加費は一月四百円。なるべく六ヶ月以上まとめて郵便局で。振替口座は表紙上段に。特に未納の方は至急払い込みを。休会、退会も必ず連絡を。  
★事務局の電話受付は原則として月々金曜の二、四時です。御協力を。